

水道の水栓もれの修繕

よく、ご相談をうける「小さな住まいの悩みごと」のひとつです。ついつい、そのままにしてしまう・・・と、1日中の水漏れでバケツ約6杯分にもなることがあるそうです。この水漏れの原因となっているのが、パッキンなどの磨耗です。工具があれば、プロに頼まなくても簡単に直せます。プロに頼むと、その修理費のほとんどが工賃(手間代)でかなり高くなってしまいます。ご自分でやってお小遣いをつくりませんか？

修理をはじめる前に・・・

●ゴム製パッキン

一般に使用されているゴム製パッキンの耐久年数は 約3～4年です。
この期間を目安に交換しましょう。

●止水栓

水栓のメンテナンス作業をするときは、必ず 止水栓をしめます。

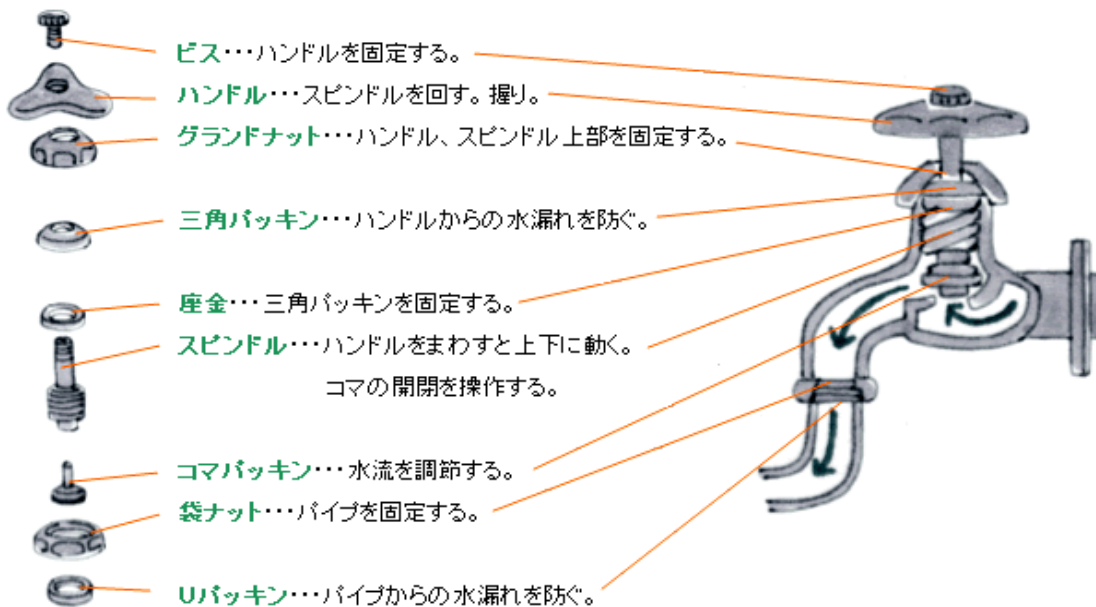
しめ忘れると、作業によっては水が噴き出す場合があります。

止水栓をしめる必要のない作業もありますが、水まわりの作業の時は必ずしめたほうが安全です。

●止水栓の種類

屋外タイプ・・・(1)水道メーター内にBOXがある (2)専用のBOXがある
室内タイプ・・・水洗トイレや洗面所にあるもの

水栓の構造



ハンドルのすきまからもれる・・・

ハンドルのすきまから水もれしている時は、三角パッキンを交換します。

(1)まず、スパナで グランドナットを 上から見て 反時計まわりにまわして ゆるめます。

(2)グランドナットがはずれたら、ハンドルをゆるめて スピンドルごとはずし、三角パッキンを新しいものに交換します。この場合、三角パッキンと座金は セットで販売されているので 両方とも交換します。

(3)取り付けは、はずした時の逆の手順でおこないます。

水栓の根元からもれる・・・

水栓の根元から水もれしている時は、シールテープの劣化が原因です。水栓をはずして 新しいシールテープに交換しましょう。

1



最初に止水栓をしめます。
水栓を反時計まわりにまわしてとりはずします。
このときに、「水栓取りはずしレンチ」を使うと、簡単に作業
できます。

2



金具のネジ部分に巻きつけられている古いシールテープ
をはがし、先のとがったもので 溝の中まで 残らず取りの
ぞきます。
そして、ネジ部分に 新しいシールテープ(長さ30cmくらい
のもの)を、5～6回まんべんなく巻きつけます。
このとき、時計回りに引っ張りながら行くと きれいに巻け
ます。

3



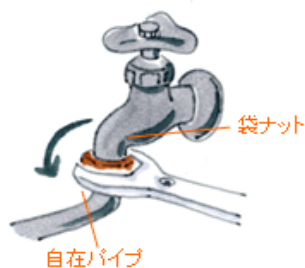
水栓が正しい位置におさまるように、水栓とりはずしレンチ
で 時計回りにまわしてねじこみます。
水栓をとりつけた後に、金具が垂直に正しい位置におさ
まっているか確認します。
水栓が左に傾いていたら・・・テープの巻きすぎです。右に
傾いていたら・・・巻き不足です。
巻きなおしをするときは、同じテープを使わずに 新しいも
のを使います。

4



取り付けが しっかり終わったら、止水栓をあけて通水テス
トをし、水もれをしていないか確認します。

自在パイプのすき間からもれる・・・



袋ナットがゆるんでいないか確認します。ゆるんでいたら、ナットを締め直します。それでも水もれするときは、Uパッキンが傷んでいないか確認して交換します。交換用のパッキンは、Uパッキンにリングがセットになっているので、両方とも交換します。強く締めすぎると、パイプが動きにくくなるので気を付けましょう。

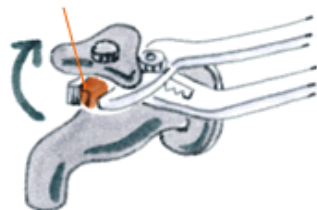


ハンドルをしめても水がもれる・・・

コマパッキンの磨耗が原因です。コマパッキンは水を流したり、とめたりする役割を果たしています。この部分を交換すれば、吐水口からの水漏れは直ります。

●まず、止水栓をしめてから、作業を行います。

グラウンドナット



ハンドルをしめ、グラウンドナットを時計まわりにまわして取りはずします。ハンドルをスピンドルごとはずします。



水栓金具の中に残っているコマパッキンをペンチやピンセットなどで取り出し、新しいものと交換します。はずした時と逆の要領で元の状態にもどします。